

文化人類学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
文化人類学概論	文化人類学原論	2	沼崎 一郎	3	前期水曜日2講時	
文化人類学概論	文化人類学原論	2	沼崎 一郎	4	後期水曜日2講時	
文化人類学基礎講読	専門文献読解1	2	川口 幸大	3	前期火曜日3講時	
文化人類学基礎講読	現代人類学入門(英書購読)	2	沼崎 一郎	4	後期火曜日3講時	
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	3	前期月曜日4講時	
文化人類学基礎演習	文化人類学基礎演習	2	越智 郁乃	4	後期月曜日4講時	
文化人類学各論	芸術文化とジェンダー／セクシュアリティ	2	中村 美亜	5	前期集中 その他 連講	
文化人類学各論	災害人類学	2	ポレー・ベンメレン・セバスチャン	6	後期金曜日3講時	
文化人類学演習	英語古典原書講読	2	沼崎 一郎	5	前期火曜日2講時	
文化人類学演習	文化人類学研究計画法	2	沼崎 一郎	6	後期火曜日2講時	
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	越智 郁乃.川口 幸大	5	前期水曜日3講時.前期 水曜日 4講時	
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大.越智 郁乃	6	後期水曜日3講時.後期 水曜日 4講時	

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB33203, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学原論

2. Course Title (授業題目) : Principles of Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要： アメリカ人類学の中心的思想のひとつである文化相対主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上でもっとも大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通じた学びの方法というものを身に付けてほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This lecture examines the intellectual history of cultural relativism in American Anthropology from 19th to mid 20th century. Students will learn how to conduct careful textual analysis and how to create detailed lecture notes.

5. 学修の到達目標：(1) 学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける

(2) 講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する

(3) 論述試験に慣れる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) Acquire a basic academic attitude necessary in the Faculty of Arts

(2) Learn how to take memos in class and how to turn them into detailed lecture notes

(3) Become familiar with written examination

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

- 1 導入
- 2 文化と文明
- 3 相対主義と絶対主義、個別主義と普遍主義
- 4 保守主義と進歩主義
- 5 フランツ・ボアズ
- 6 アラン・リロイ・ロック
- 7 エドワード・サピア
- 8 ルース・ベネディクト
- 9 マーガレット・ミード
- 10 メルヴィル・ハースコヴィッツ
- 11 クライド・クラックホーン
- 12 クリフォード・ギアツ
- 13 デイヴィッド・シュナイダー
- 14 クワメ・アンソニー・アッピア
- 15 文化相対主義と現代世界

8. 成績評価方法：

講義ノート提出 (50%)

論述課題 (50%)

9. 教科書および参考書：

教室で指示する

10. 授業時間外学習：(1) 教科書を通読し、本講義の背景についての概略的な知識を得る

(2) 個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

授業中に、電子辞書、ノート PC (タブレット) 等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB43203, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学原論

2. Course Title (授業題目)：Principles of Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要： アメリカ人類学においてもひとつの中心的思想である文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上でもっとも大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通じた学びの方法というものを身に付けてほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： This lecture examines the intellectual history of cultural evolutionism in American Anthropology from 19th to mid 20th century. Students will learn how to conduct careful textual analysis and how to create detailed lecture notes.

5. 学修の到達目標： (1) 学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける

(2) 講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する

(3) 論述試験に慣れる

6. Learning Goals (学修の到達目標)： (1) Acquire a basic academic attitude necessary in the Faculty of Arts

(2) Learn how to take memos in class and how to turn them into detailed lecture notes

(3) Become familiar with written examination

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

1 導入

2 18～19 世紀の文明思想

3 19～20 世紀の進化思想

4 19～20 世紀の戦争と革命

5 ルイス・ヘンリー・モルガン

6 フランツ・ボアズの「反進化主義」

7 アルフレッド・クローバー

8 ロバート・レッドフィールド

9 レズリー・ホワイト

10 エレノア・リーコック

11 ジュリアン・スチュワード

12 生態人類学と文化唯物論

13 エルマン・サーヴィス

14 エリック・ウルフ

15 文化進化主義と現代世界

8. 成績評価方法：

講義ノート提出 (50%)

論述課題 (50%)

9. 教科書および参考書：

教室で指示する

10. 授業時間外学習： (1) 教科書を通読し、本講義の背景についての概略的な知識を得る

(2) 個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

授業中に、電子辞書、ノート PC (タブレット) 等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB32305, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献読解1
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)
3. 授業の目的と概要：文化人類学の代表的な主題について、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各主題に関連した代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の考え方と研究方法とはどのようなものかを学んでゆく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To learn main research topics of cultural anthropology through literature study
5. 学修の到達目標：文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To learn theory and ethnography of cultural anthropology
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. イントロダクション
 2. 文化人類学とは
 3. フィールドワーク
 4. 家族と親族
 5. 宗教
 6. ジェンダーとセクシュアリティ
 7. 社会関係
 8. 植民地主義
 9. エスニシティ
 10. 移民
 11. トランスナショナリズム
 12. 多文化共生
 13. 観光
 14. 経済
 15. 人類学の応用
8. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席 [20%]、その他（授業時の口頭発表と議論参加） [40%]
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB42305, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代人類学入門（英書購読）
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Contemporary Anthropology (Through English Textbook)
3. 授業の目的と概要：文化人類学の最新教科書の 1 冊である Robert H. Lavenda & Emily A. Schultz (著) Core Concepts in Cultural Anthropology 第 7 版 (2020) の第 1 章と第 2 章を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、英書の精密な訳読の技法を習得するとともに、文化人類学の根本概念を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Read and translate the first two chapters of Robert H. Lavenda & Emily A. Schultz, Core Concepts in Cultural Anthropology, 7th edition (2020), and learn how to translate academic English and understand the basic concepts in cultural anthropology.
5. 学修の到達目標：(1) 学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。
(2) 文化人類学の息吹に触れる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Acquire academic translation skill.
2. Taste the latest trends in cultural anthropology
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
授業計画
第 1 回：導入、授業法式の説明
第 2 回：テキスト訳出 P. 1-2
第 3 回：テキスト訳出 P. 3-4
第 4 回：テキスト訳出 P. 5-6
第 5 回：テキスト訳出 P. 7-8
第 8 回：テキスト訳出 P. 9-10
第 7 回：テキスト訳出 P. 11-12
第 8 回：テキスト訳出 P. 13-14
第 9 回：テキスト訳出 P. 15-16
第 10 回：テキスト訳出 P. 17-18
第 11 回：テキスト訳出 P. 19-20
第 12 回：テキスト訳出 P. 21-22
第 13 回：テキスト訳出 P. 23-24
第 14 回：テキスト訳出 P. 25-26
第 15 回：テキスト訳出 P. 27-28

受講生は毎回、指定の箇所の訳文提出し、後日見本訳とその解説を参照して訳文を修正し、再提出する。

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

下訳の作成と修正作業（50%）、授業での討論への参加（50%）による。

9. 教科書および参考書：

Robert H. Lavenda & Emily A. Schultz (著) Core Concepts in Cultural Anthropology 第 7 版 (2020)

10. 授業時間外学習：毎週、2 頁ほどの英文の下訳を作成する。

授業での議論に基づいて、下訳を修正する。

Prepare translations for 2 pages of the text each week.

Participate in classroom discussion on translations.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB31404, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：文化人類学には、いくつかの代表的な主題がある（家族、ジェンダー、宗教、経済、移動など）。この授業では、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各主題に関連した代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の考え方と研究方法とはどのようなものかを学んでゆく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To learn main research topics and theory of cultural anthropology through literature study and discussion

5. 学修の到達目標：基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To learn main research topics and theor of cultural anthropology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 文化とは、文化人類学とは
3. 「われわれ」を問い直す
4. 家族、家、親族
5. 宗教と信仰
6. 性、ジェンダー、セクシュアリティ
7. 生、老い、死
8. つながりと社会関係
9. 語り、記憶、伝承、
10. 売買と消費
11. 移動と移民
12. ともに暮らす
13. 自然と災害、レジリエンス
14. 食べること
15. 人類学とあなた

8. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席 [20%]、その他（授業時の口頭発表と議論参加） [40%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB41406, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学基礎演習
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)
3. 授業の目的と概要：複雑な社会をいきなり研究しようとしても、どこから始めたらいいのか途方に暮れるだろう。この授業では、文化人類学でながく培われてきた思考の道具立てとして、いくつかのテーマ（社会、コミュニケーション、宗教、異文化、など）を取り上げ、それらに関する基礎文献を講読することで、研究の手がかりと文化人類学の概括的な知識を得る。次に各テーマに関連して学生が執筆した民族誌を読み解くことで、文化人類学の思考法と研究方法がいかなるものかを学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course takes up major themes (society, communications, religion, different cultures, etc.), explore basic literature regarding these themes, and helps students obtain a fundamental understanding of cultural anthropology. Students will also read students' ethnographies relating to these themes and learn basic methods of anthropological thinking.
5. 学修の到達目標：基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Achieve basic understanding of the themes and methods of cultural anthropology through reading basic literature and group discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 他者と出会う：身近な場所での調査
 3. 仕事の世界：参与観察、行動観察
 4. 社会とその周縁：社会へのアプローチ法
 5. コミュニケーションの内と外：疎通・伝播・伝承
 6. 信じることの手ざわり：「宗教」をどう調査するか
 7. 「外国人/異文化」との遭遇：異文化を書くこと
 8. 学生の民族誌を読む①都市の野菜行商
 9. 学生の民族誌を読む②棚田の保全と開発
 10. 学生の民族誌を読む③肉食を再考する
 11. 学生の民族誌を読む④摂食障害に立ち向かう
 12. 学生の民族誌を読む⑤銭湯の行動学
 13. 学生の民族誌を読む⑥エチオピアのビデオ小屋
 14. 民族誌を書くこと
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席、授業時の口頭発表、議論参加 [60%]
9. 教科書および参考書：

教科書：菅原和孝 編 2006『フィールドワークへの挑戦—“実践”人類学入門』世界思想社。
他の文献については授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成、発表担当者はレジュメの作成。後半はレポート構想発表の準備や資料収集、レポート執筆を授業時間外に行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：5 単位数：2

担当教員：中村 美亜

コード：LB98816, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：芸術文化とジェンダー／セクシュアリティ

2. Course Title (授業題目)：Arts and Gender/Sexuality

3. 授業の目的と概要：芸術文化は、趣味や娯楽の対象にとどまらず、自己表現、集団表象、ケア、アクティビズムなど人間のさまざまな営みと深く関わっている。本授業では、「芸術文化」を美術や音楽などの狭義の芸術だけでなく、文化表現一般も含む広い概念として捉え、これらとジェンダー／セクシュアリティの関係について理解を深めていく。文化人類学に加え、芸術学、哲学、社会学、認知科学、ケアなどを含む学際的な内容である。授業では、理論や事例に関する講義だけでなく、グループディスカッションやプロジェクトなど体験的学習も積極的に実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Arts and culture are not mere hobby and entertainment but highly related to self-expression, collective representation, care, and activism. Considering arts and culture in a broad sense - not only high art such as fine art and music but also cultural expression in general, this course aims to deepen understanding of the relationships between gender/sexuality, and arts and culture. Discussions are interdisciplinary, encompassing anthropology, arts studies, philosophy, sociology, cognitive science, and care. Classes consist of lectures and case studies as well as group discussions and projects.

5. 学修の到達目標：(1) 芸術文化、ジェンダー／セクシュアリティに関する基本的概念を習得する。

(2) 芸術文化とジェンダー／セクシュアリティの関係を理解する。

(3) この分野の課題を主体的に発見し、探究する能力を高める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Learn the concepts of arts and culture, and gender and sexuality.

(2) Understand the relationships between arts and culture, and gender and sexuality.

(3) Find agendas in the field and explore them proactively.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. ジェンダー

3. 表現とコミュニケーション

4. セクシュアリティ

5. 非言語コミュニケーション論

6-7. ジェンダー／セクシュアリティと表象

8-9. ジェンダー／セクシュアリティとアートアクティビズム

10. まとめ

11~14 グループプロジェクト

15 グループ発表と講評

8. 成績評価方法：

授業への貢献（出席、グループワーク、発表など）とレポート

9. 教科書および参考書：

【参考書】

中村美亜『クィア・セクソロジー—性の思いこみを解きほぐす』インパクト出版会、2008年

中村美亜『音楽をひらく—アート・ケア・文化のトリロジー』水声社、2013年

中村美亜「アートと社会を語る言葉」、九州大学ソーシャルアートラボ編『ソーシャルアートラボ—地域と社会をひらく』水曜社、2018年

など

10. 授業時間外学習：翌日の準備、レポート課題

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン

コード：LB65301, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：災害人類学

2. Course Title (授業題目)：Anthropology of Disaster

3. 授業の目的と概要：文化人類学における 21 世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disaster という言葉は、自然災害（地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火）、人為的事故（戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故）、環境と健康危機（飢饉、疾病、汚染、熱波）など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の種類、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Anthropology's opening of the twenty-first century has been marked by a growing field surrounding the phenomena referred to as "disasters". The word disaster brings to mind natural hazards (earthquakes, hurricanes, tsunamis, floods, volcanic eruptions), so-called man-made accidents (plane crashes, train derailments, nuclear accidents, car accidents), epidemics, famines, wars, genocides and more recently, terrorist attacks. Reflecting on its legitimacy and development, this course will introduce some of the common issues and themes concerned by the anthropology of disasters: Nature-culture, community, vulnerability, resilience, solidarity, social justice, politics of death, collective memory and representations. Drawing from these discussions, this course shows how disaster anthropologists may contribute to understanding and dealing with disasters. We hope that this course will provide students with the necessary tools to develop their knowledge and an interest in applying anthropological knowledge in the contexts of disasters.

5. 学修の到達目標：1. 災害問題について理解を深める。

2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。

3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Understanding disaster issues

2. Learn and Critically assess the ideas and practices related to disaster from the point of view of anthropology

3. Think practically about one can contribute to disaster activities.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. コースのイントロダクション
- II. 現代世界における災害
- III. 人類学の視点から見た災害
- IV. リスクと脆弱性について
- V. 減災におけるレジリエンス
- VI. 気候変動、適応、脆弱性
- VII. 災害時の社会的連絡
- VIII. 災害コミュニティの移動と移動
- IX. 映画スクリーニング 1: Fighting for Nothing to Happen
- X. 想像的な災害コミュニティ
- XI. 犠牲者、追悼、メモリアル宗教と災害
- XII. 宗教と災害
- XIII. 映画スクリーニング 2: 東日本大震災と仏教
- XIV. 災害ツーリズム、記憶、語り部
- XV. 将来の災害文化人類学

8. 成績評価方法：

授業参加、小テスト、ミニレポートを総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はなし。読書リスト 研究室で適宜指示する。

No textbook. Reading list and handouts

10. 授業時間外学習：読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

Lectures notes and written memos based on the reading (articles and chapters). Review with other students after each lecture.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB52209, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語古典原書講読
2. Course Title (授業題目)：Classics in Cultural Anthropology
3. 授業の目的と概要：文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。
今semesterは、第11章を訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版（1965）を用いる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Read and translate selected chapters from Franz Boas, The Mind of Primitive Man (1938) and learn the academic way of understanding the classics.

This semester, we will read and translate chapter 11 using the 1965 version of the text.

5. 学修の到達目標：(1) 学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。
(2) 文化人類学の古典の息吹に触れる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Acquire academic translation skill.
2. Appreciate a classic in anthropological literature.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
オンライン授業（主としてオンデマンド型遠隔授業）
この授業はオンデマンド方式と双方向遠隔授業とを組み合わせる予定です。

授業計画

- 第1回：導入、授業法式の説明
- 第2回：「文学部的」訳出法
- 第3回：テキスト訳出 P. 180-181
- 第4回：テキスト訳出 P. 182-183
- 第5回：テキスト訳出 P. 184-185
- 第6回：テキスト訳出 P. 186-187
- 第7回：テキスト訳出 P. 188-189
- 第8回：テキスト訳出 P. 190-191
- 第9回：テキスト訳出 P. 192-193
- 第10回：テキスト訳出 P. 194-195
- 第11回：テキスト訳出 P. 196-197
- 第12回：テキスト訳出 P. 198-199
- 第13回：テキスト訳出 P. 200-201
- 第14回：テキスト訳出 P. 202-203
- 第15回：総括論

受講生は毎回、指定の箇所の訳文をGoogle Classroomで提出し、後日見本訳とその解説を参照して訳文を修正し、再提出する。

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：
下訳の作成と修正作業（50%）、訳稿の検討への参加（50%）による。
9. 教科書および参考書：
Franz Boas, The Mind of Primitive Man, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.
10. 授業時間外学習：毎週、2頁ほどの英文の下訳を作成する。授業での議論に基づいて、下訳を修正する。訳注作成のための資料収集と分析を行う。
Prepare translations for 2 pages of the text each week. Participate in classroom discussion on translations. Collect and analyze materials for creating footnotes to translations.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB62209, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学研究計画法
2. Course Title (授業題目)：Research Design in Cultural Anthropology
3. 授業の目的と概要：主に卒業論文を念頭に置きながら、文化人類学的な研究を行う計画の立て方を学び、実際に研究トピックと研究テーマを選択して、それを実施するための具体的な研究計画を立案し、研究計画書を執筆する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Develop a research proposal for graduation thesis. Learn how to choose a research topic and how to relate it to a larger anthropological theme.
5. 学修の到達目標：(1)文化人類学的な研究調査の方法論を学ぶ。
(2)研究計画の立て方を体得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Learn anthropological methods
(2)Learn how to write a research proposal
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業計画
 1. 導入 授業方法の説明
 2. 研究トピックの探索
 3. 研究トピックの決定
 4. 研究テーマの探索 1 ブレーンストーミング
 5. 研究テーマの探索 2 研究室の過去の卒業論文の探索
 6. 研究テーマの探索 3 学術誌に掲載された論文の探索
 7. 研究テーマの探索 4 人類学理論書の探索
 8. 研究テーマの決定
 9. 研究計画書の作成 1 問題設定の執筆とクラス討論
 10. 研究計画書の作成 2 理論的背景の執筆とクラス討論
 11. 研究計画書の作成 3 民族誌的背景の執筆とクラス討論
 12. 研究計画書の作成 4 研究方法の執筆とクラス討論
 13. 口頭発表 1 パワーポイントの作成
 14. 口頭発表 2 パワーポイントを用いた発表練習 (前半)
 15. 口頭発表 3 パワーポイントを用いた発表練習 (後半)

なお、受講生の進捗状況によって授業の予定と内容は変更することがある。

8. 成績評価方法：

授業参加 [25%]
レジュメと口頭発表 [25%]
研究計画書 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書・参考書は、授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：文献の収集と文献目録の作成、研究計画書の執筆、口頭発表用パワーポイントの作成。Dropbox を利用し、文献目録、研究計画書の下書、パワーポイントの添削を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

Semester : 5 単位数 : 2

担当教員：越智 郁乃. 川口 幸大

コード：LB53310, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワーク実習
2. Course Title (授業題目) : How do we do fieldwork?
3. 授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実際に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画を立案する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Fieldwork and ethnographic writing based on field research are the most basic research methods in cultural anthropology. In this class, we will discuss various techniques and methods, including how to set and construct the objectives of fieldwork and acquire them experientially through actual trials. In the first semester, we will discuss research methods and the types and characteristics of materials and make a research plan according to our own interests.
5. 学修の到達目標：文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Each student will learn how to conduct fieldwork in cultural anthropology and how to write an ethnography.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 問題領域の確認
 3. 過去の実習テーマの検討
 4. 調査対象の検討
 5. 調査対象の決定
 6. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論①
 7. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論②
 8. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論③
 9. フィールドワーク計画の報告と討論①
 10. フィールドワーク計画の報告と討論②
 11. フィールドワーク計画の報告と討論③
 12. フィールドワーク計画の報告と討論④
 13. フィールドワークの成果発表①
 14. フィールドワークの成果発表②
 15. フィールドワークの成果発表③
8. 成績評価方法：

出席[30%]、平常点[40%]、レポート[30%]
9. 教科書および参考書：

特定の教科書は用いず、必要資料は講義前に classroom にて適宜配布する。
10. 授業時間外学習：フィールドワークに向けたテーマ設定、文献調査等を事前に行った上で、各自のテーマに沿ったフィールドワークを遂行し、フィールドノートを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時. 後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：川口 幸大. 越智 郁乃

コード：LB63311, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目)：Doing Fieldwork: Methods in Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実際に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Fieldwork and ethnographic writing based on field research are the most basic research methods in cultural anthropology. In this class, we will discuss various techniques and methods, including how to set and construct the objectives of fieldwork and acquire them experientially through actual trials. In this semester, students will conduct research based on their own research plans, and complete each research and summarize the results through discussing the progress of the research in this class.

5. 学修の到達目標：文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each student will learn how to conduct fieldwork in cultural anthropology and how to write an ethnography.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. テーマと実施計画の再確認
2. フィールドワークの報告と討論①
3. フィールドワークの報告と討論②
4. フィールドワークの報告と討論③
5. フィールドワークの報告と討論④
6. フィールドワークの報告と討論⑤
7. フィールドワークの報告と討論⑥
8. 理論の検討①
9. 理論の検討②
10. 理論の検討③
11. 報告書の作成に関する説明①
12. 報告書の作成に関する説明②
13. 受講者の報告書の検討①
14. 受講者の報告書の検討②
15. 受講者の報告書の検討③

8. 成績評価方法：

出席と平常点 [50%] 報告書 [50%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する

10. 授業時間外学習：フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし